専大校友を訪ねて

気仙沼にある漁業会社の社長

臼井（うすい） 壮太朗（そうたろう）さん（平6法）

日本の漁業に活気を取り戻す

1882（明治15）年創業の漁業会社・臼福本店の5代目。魚問屋から始まり、2代目のときに漁業に参画。現在は遠洋マグロはえ縄漁を専門に行う。所有する7隻の船は1年以上に及ぶ長い航海を続け、大西洋・インド洋沖でマグロを追う。

漁業は漁師だけでなく、エサを積む人や船を整備する人など多くのプロの力で成り立っている。「皆に気持ちよく働いてもらえるように全体をコーディネートする」ことが船主である臼井さんの役目。乗船員の慰労や、船頭と操業計画を立てるために海外の寄港先に赴くことも多い。

日本有数の漁港として知られる気仙沼だが、東日本大震災では甚大な被害に見舞われ、臼福本店も社屋や倉庫などを津波で失った。「エネルギーと食、そして人のつながりの大切さを痛感した。そのことを発信・実践していくことは生き残った者の使命」と語る臼井さんは、2012年に社長に就任してから、さまざまな活動に力を注ぐ。子供たちに食の大切さを伝え、水産業への関心を深めてもらうための普及活動もその一つで、賛同の輪は全国に広がっている。

「世界の潮流はリーズナブルからサステナブルへ。日本も意識を変えていかなければ未来は危うい」と、SDGsにも意欲的に取り組む。20年8月には、タイセイヨウクロマグロ漁業では世界で初めて、持続可能な漁業の国際規格であるMSC認証を取得した。同認証は適切な資源管理のもとに操業する漁業者の証しで、世界的な信頼度は高い。そのぶん審査の基準は厳しく、関係機関と地道に対話を重ね、申請から2年がかりで認証取得にこぎ着けた。

ただし臼井さんにとって認証取得はあくまでも通過点だ。「人手不足など多くの問題を抱える日本の漁業を真に持続可能なものにするためには、資源を適切に管理するだけでなく、漁業に携わる人たちが誇りを持って働ける環境を整え、水産業を成長産業に変えていく必要がある」と力を込める。

専大ではフェンシング部に在籍し、エペのエースとして活躍。3年次には、初の関東学生リーグ総合優勝に貢献した。「大学は人生の経験を積む場所。私はフェンシングに情熱を傾け、競技を通じてあきらめない心を学んだ」。果敢な姿勢は今も変わらない。「海と共に生きる」決意を胸に、力強く日本漁業の復興に挑む臼井さんの奮闘の日々は続く。

情報科学研　川崎国際環境技術展に参加

スマートキャンパス実現に向けて

オンライン開催の第13回川崎国際環境技術展（1月21日～2月5日）に本学情報科学研究所（植竹朋文所長）が出展。今年度はデータサイエンス研究プロジェクトの成果として、Wi-Fiの接続情報に基づく混雑状況の可視化など3研究を発表した＝写真。

同展は、環境問題に即応する環境技術などを幅広く展示するもので毎年開催している。今年はコロナ対策でオンラインでの開催となった。

データサイエンス研究プロジェクトのメンバーはネットワーク情報学部の江原淳教授、飯田周作教授、河野敏鑑准教授、安藤映准教授、沼晃介准教授、石井健太郎准教授、経営学部教授の植竹所長。本学の「データサイエンス研究助成」を受けている。

感染症予防では、密接・密集などを避けることが求められている。研究ではキャンパス利用者がどこに集中しているか把握し、行動変容を促すことを目的に、混雑情報の可視化を図った。

「密」を避けるもう一つの取り組みは、画像表示による食堂混雑緩和。すでに神田キャンパス10号館で導入しており、7階の食堂の混雑具合が、1階入り口で確認できる。

さらに環境問題への対応として、電力消費構造の分析と削減の試算の研究を行った。河野プロジェクトの学生が取り組み、キャンパスの建物ごとの季節変化を分析、電力消費削減を試算した。

「利用者のキャンパスライフを向上させたい」と話すのは石井准教授。構想段階では、人があふれる教室や食堂の混雑回避を目的としていたが、コロナ禍で一転、キャンパスから人がいなくなってしまった。そこで方針を「3密回避」「感染予防」にシフトした。Wi-Fi接続状況分析による教室利用、画像提示による食堂の混雑状況を可視化することで「学内の混雑緩和を図り、感染予防に活用できる」と江原教授は話す。

念頭にあるのは大学をスマート化する「スマートキャンパス」だ。消費電力構造を分析することで、日当たりのいい教室は暑いので夏期には使わないなどの具体的なアクションも期待できる。

植竹所長は「大学の資産の効率的な運用だけでなく、教職員や学生の行動変容も促し、誰もが快適に過ごせるキャンパスを実現したい」と期待する。

五輪延期のレガシー　3氏が解説

スポーツ研　公開シンポジウム

コロナの影響で2021年に延期された東京オリンピック・パラリンピックが私たちにどんなレガシー（遺産）を遺（のこ）すのか――。専修大学スポーツ研究所（佐竹弘靖所長）のシンポジウム「東京2020の延期は何を遺すのか」が12月17日、オンラインで開かれた。

大会運営などさまざまな課題が山積している東京オリ・パラ。こうした状況を受け、久木留毅文学部教授（ハイパフォーマンススポーツセンター長）、前原正浩氏（国際卓球連盟副会長）、富川理充商学部教授（日本トライアスロン連合パラリンピック対策チームリーダー）が現状報告と今後に遺されることは何かについて話し合った。

久木留教授はハイパフォーマンススポーツセンターの成り立ちと、ブランディングへの取り組みを説明した上で、「東京オリ・パラの拠点となるセンターなので、ブランド力を強化し、積極的な情報提供をしていくことで、開催に否定的な人たちに知ってもらうことが必要とされている」と力説した。

オンラインで多くの学生らが聴講した

卓球は11月の中国、マカオから国際大会が再開した。前原氏はガイドラインの作成、消毒の徹底、PCR検査などの感染予防策を紹介。「五輪はこれまでも感染症との闘いだった。現在行われている取り組みが蓄積され、今後のレガシーとなっていく」と語った。

富川教授はパラトライアスロン・ワールドカップ（10月、ポルトガル）での感染対策を紹介。「さまざまなハンディキャップを持つ選手たちには道具の消毒の仕方など、きめ細かいガイドラインが求められる」と課題を述べた。

外国語のススメ　外国語教育研究室

－ 90 －

櫻井　文子
国際コミュニケーション学部准教授

美容院怖い

国外に長期滞在すると悩ましいことのひとつに美容院問題がある。日本語でも、どんな髪形にしてほしいかを的確に伝えるのはなかなか難しいが、これが外国語になるとぐっとハードルが上がるからだ。

はじめて1人で（外国の）美容院に行ったのは高校生の頃、チェコのプラハでのことだった。ショートボブにしたかったので、雑誌の切り抜きを美容師に見せて、これと同じようにしてほしいと頼んだ。それなのに後頭部は半分以上刈り上げられ、前はパッツン前髪に長いもみあげ、という前衛的な髪形にされてしまった。確かに前から見れば写真と同じだったが、後ろ姿は「ワカメちゃん」。

この悲劇以降も、岸田劉生の『麗子像』そっくりにされたり、ビートルズのようなマッシュルームカットにされたりと、美容院は毎回試練の場所だった。毛先をすいてほしいと懸命に訴えているのに、「切るところがない」とさじを投げられたこともある。これに懲りて（もしくは心が折れて）、大人になり自分で美容院を選べるようになってからは、国外では日本人の美容師がいる店に行くようになった。

思うに、外国語での美容師とのコミュニケーションには格別の難しさがある。髪形という三次元のイメージを、言葉に落とし込んですり合わせる必要があるからだ。さらに困ったことに、美容の領域では辞書はおよそ役に立たない。「動きを出す」とか「ハイライトを入れる」とか、辞書には載っていないことも今なら言えなくもないが、それが果たして通じるのかは、怖くていまだ試せていない。

だからというわけではないが、髪が伸びるくらい長い間、国外に出る機会にまた恵まれたら、勇気を出して挑戦しても良いなと思うこのごろである。

（地域研究〈ヨーロッパ〉）

短縮版。全文はCALL教室ホームページで。

㈱アマタケにユニホーム贈呈

陸上競技部

陸上競技部のユニホームスポンサーである㈱アマタケ（岩手県大船渡市）に、第97回箱根駅伝（東京箱根間往復大学駅伝競走）で力走する選手の写真を添付した額入りのユニホームが贈呈された。

右から宮岡部長、長谷川監督、甘竹氏、柴内コーチ

贈呈式は1月27日、神田キャンパスで行われ、宮岡孝之部長、長谷川淳監督、柴内康寛コーチ、アマタケ相談役で校友会名誉会長の甘竹秀雄氏（昭33商経）が出席した。

校友会情報

新校友歓迎祝賀会中止のお知らせ

卒業式後に開催予定でした校友会主催の新校友歓迎祝賀会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止とさせていただきます。なにとぞご了承いただきますようお願い申し上げます。

年会費納入のお願い

2021年度の校友会年会費を受け付けています。振込用紙の必要な方は校友会事務局までご連絡ください。年会費納入者には「ニュース専修」と校友会誌「アドニス」をお届けします。

住所変更届のお願い

住所が変わった方、これから変わる方は校友会事務局までご連絡ください。インターネットからの変更も可能です。※「専修大学校友会　届出変更」で検索。

SMS配信のお知らせ

SMS（ショートメッセージサービス）でご案内を行っています。

校友会事務局
☎03・3265・7579
▽FAX03・3265・7089▽E-mail:koyuka@acc.senshu-u.ac.jp